

# 芹沢光治良 功績しのぶ

## 沼津、研究者やファンら

沼津市出身の作家・芹沢光治良をしのぶ「光治良忌」が、市営墓地内の墓前で営まれ、参加者が光治良の作品などについて語り合った。



芹沢光治良の墓前に献花する参加者（沼津市中瀬町の市営墓地で）

光治良は1896年、同市我入道で生まれ、旧制沼津中学（現沼津東高）から、一高・東京帝大に進学。作家として「人間の運命」など多くの作品を残し、日本

ペンクラブ会長や、日本芸術院会員などを歴任し、1993年に亡くなった。命日は3月23日だが、地元の研究家やファンでつくる沼津芹沢光治良文学愛好会が、毎年3月の第2土曜日に光治良忌を営んでいる。

式では、会員ら約20人が墓前に集まり、白いカーネーションを献花した。愛好会事務局の不破久温さん（75）によると、今年は光治良の人生の転換点となったパリ留学から100年で「文学者への道を歩むことになった留学の意義などに思いをはせたい」と話していた。